



おかしな奴



幕末太陽傳

第13回コンパルホール映画上映会フィルムマラソン

日本映画秀作選



あゝ軍歌



吹けば飛ぶよな男だが

日本映画の量産時代、気鋭な監督と役者たちが
喜劇映画で新たな挑戦を試みた秀作4選を、
貴重な35ミリ・フィルムで一挙上映!

2025 1/18 (土)

あゝ軍歌 10:30 (11:59終了)
幕末太陽傳 13:50 (15:40終了)
吹けば飛ぶよな男だが 15:55 (17:26終了)
おかしな奴 17:35 (19:25終了)

Cinema Talk

18日(土) 12:50~13:45

衛藤 賢史氏 (古典芸能・映画論専門)
田井 肇氏 (シネマ5支配人)

1/19 (日)

あゝ軍歌 10:30 (11:59終了)
幕末太陽傳 13:15 (15:05終了)
吹けば飛ぶよな男だが 15:20 (16:51終了)
おかしな奴 17:00 (18:50終了)

両日とも軽食販売を行います。客席内での飲食はご遠慮いただきます。館内に食事スペースを準備いたしますので、ご来場当日、会場スタッフまでお問合せください。

上映作品

あゝ軍歌

1970年(昭和45年) / カラー / シネマスコープ / 1時間29分 / 制作:松竹
原作:早坂暁 / 脚本:満友敬司 / 脚本・監督:前田陽一 / 撮影:加藤正幸 / 音楽:大森盛太郎
出演:フランキー堺、財津一郎、倍賞千恵子、北林谷栄、人見明、上田吉二郎 他

吹けば飛ぶよな男だが

1968年(昭和43年) / カラー / シネマスコープ / 1時間31分 / 制作:松竹
脚本:森崎東 / 脚本・監督:山田洋次 / 撮影:高羽哲夫 / 音楽:山本直純 / 美術:重田重盛
出演:なべおさみ、緑魔子、犬塚弘、芦屋小扇、ミヤコ蝶々、解説役・小沢昭一 他

ばくまつたいようでん

幕末太陽傳

〈第31回キネマ旬報第4位〉

1957年(昭和32年) / モノクロ / スタンダード / 1時間50分 / 制作:日活
脚本:田中啓一、今村昌平 / 脚本・監督:川島雄三 / 撮影:高村倉太郎 / 音楽:黛敏郎 / 美術:中村公彦
出演:フランキー堺、左幸子、南田洋子、石原裕次郎、市村俊幸、岡田真澄 他

おかしな奴

1963年(昭和38年) / モノクロ / シネマスコープ / 1時間50分 / 制作:東映(東京)
脚本:鈴木尚之 / 監督:沢島忠 / 撮影:藤井静 / 音楽:佐藤勝 / 美術:北川弘
出演:瀧美清、三田佳子、南田洋子、田中邦衛、佐藤慶、春風亭柳朝 他

コンパルホール 文化ホール 1F

1日鑑賞券 1,400円 <4作品鑑賞可 / 全席自由>

チケット発売:令和6年11月1日(金)~
前売チケット取扱:コンパルホール1階受付(販売時間9:00~17:00)
トキハ会館 / エトウ南海堂 / シネマ5

【お問い合わせ】コンパルホール ☎870-0021 大分市府内町1丁目5番38号
☎097-538-3700(受付時間 / 9:00~17:00 ※休館日を除く)

【主催】コンパルホール / 国立映画アーカイブ

【特別協力】文化庁 / 一般社団法人日本映画製作者連盟 / 全国興行生活衛生同業組合連合会 / 株式会社KADOKAWA / 大分県興行生活衛生同業組合 / シネマ5
【後援】大分合同新聞社 / OBS大分放送 / TOSテレビ大分 / OAB大分朝日放送 / エフエム大分 / J:COM大分ケーブルテレコム / ゆふいんラチオ局 / 月刊・シティ情報おおい

【鑑賞チケットについて】

●チケットの払い戻し、交換、再発券はいたしません。●チケットは、1日通して全作品をご覧いただけます。(シネマトーク含む)●チケットはどちらか1日でご利用ください。(1枚で2日間をまったく利用できません)●各日通してお一人様ご利用ください。ご入場後、他の方へのチケットの譲渡はご遠慮願います。(当日に限りチケット提示で再入場可)●定員に達した回は、ご入場をお断りすることがございます。お早目にご入場ください。●4歳から入場できます。チケットはお一人様一枚ご用意ください。(車イス席は同額1,400円で各日限定6席)●客席内での飲食はご遠慮願います。

【出店】
フーディーズ(軽食販売)



【HP】



【Instagram】

第13回コンパルホール映画上映会フィルムマラソン 日本映画秀作選

喜劇役者、フランキー堺の代表作「幕末太陽傳」と「あゝ軍歌」。山田洋二監督の初期作品で、なべおさみを主演に据えた「吹けば飛ぶよな男だが」。寅さんの愛称で馴染み深い渥美清が戦後の落語家を好演した「おかしな奴」——日本映画の量産時代、気鋭な監督と役者たちが喜劇映画で新たな挑戦を試みた秀作4選を、貴重な35ミリ・フィルム上映でお楽しみください。

1970年(昭和45年)
カラー/シネマスコープ
1時間29分
制作:松竹

あゝ軍歌



スタッフ **出演者**

原作	早坂暁	福田勝造	フランキー堺	十七才	風間恵美子
脚本	満友敬司	カトヤン	財津一郎	宮崎多一郎	大村崑
脚本・監督	前田陽一	桜子	倍賞千恵子	軍医	人見明
撮影	加藤正幸	婆さん	北林谷米	師団長	上田吉二郎
照明	佐久間丈彦	ツネ子	城野ゆき		
録音	平松時夫				
音楽	大森盛太郎				
美術	芳野尹孝				

戦争中、わざと野戦病院に入り、死を逃れた二人の男は、その後、戦没者をまつる神社へ遺族を案内する怪しげな観光ガイドとして暮らしていた。その男たちのもとへお婆さん、未亡人、少女、ヒッピー風の男が次々と迷い込んでくる奇妙な生活を描いたこの作品は、1960年代以降の松竹喜劇を支えた前田陽一監督の代表作である。そこに息づく屈折した批判精神には師匠の渋谷実監督の影響も垣間見える。その作風について、主演のフランキー堺は、「旅行」シリーズの瀬川昌治監督の「軽喜劇」に対する、前田作品の「重喜劇性」と説明して敬意を表した。劇中の所々に軍歌が挿入されて作品のリズムを築いているが、この映画で「歌」が作品の血肉となっているように、前田監督は歌謡映画にも定評があり、『進め! ジャガーズ 敵前上陸』(1968)などのヒット作を送り出した。

<第31回キネマ旬報第4位>
1957年(昭和32年)
モノクロ/スタンダード
1時間50分
制作:日活

幕末太陽傳



スタッフ **出演者**

脚本	田中啓一	居残り佐平次	フランキー堺	女房お辰	山岡久乃
//	今村昌平	おそめ	左幸子	貸本屋金造	小沢昭一
脚本・監督	川島雄三	こはる	南田洋子	仏壇屋倉造	殿山泰司
撮影	高村倉太郎	高杉晋作	石原裕次郎	久坂玄端	小林旭
照明	大西美津男	おひさ	芦川いづみ	志道間多	二谷英明
録音	橋本文雄	李兵衛大盡	市村俊幸	若衆喜助	岡田真澄
音楽	黛敏郎	//			
美術	中村公彦				
//	千葉一彦				

金もないのに品川遊廓でお大尽遊び、やむなく居残りとなったが遊廓の人気者として要領よく生きてゆく男の姿を描いた時代劇コメディ。その物語の核となったのは「居残り佐平次」をはじめ「芝浜の華財布」や「品川心中」といった古典落語ネタである。監督の川島雄三は、この他にも『愛のお荷物』(1955)や『貸間あり』(1959)といったテンポのいい喜劇を連発したが、演出家としての幅は広く、男女関係のもつれをめぐるメロドラマなどにも秀作を送り出した才人である。フランキー堺扮する居残り佐平次は、軽妙な味を見せながらも実は胸を病んでいるという設定であり、その姿には川島監督が一貫して作品に投影してきた底深い虚無を垣間見ることができる。また共演者として、日活のトップ・スターになる前の、時代劇初出演の石原裕次郎が、佐平次と同宿して一騒動を起こす勤皇の志士高杉晋作を若々しく演じている。

<第42回キネマ旬報第10位>
1968年(昭和43年)
カラー/シネマスコープ
1時間31分
制作:松竹

吹けば飛ぶよな男だが



スタッフ **出演者**

脚本	森崎東	三郎	なべおさみ	先生	有島一郎
脚本・監督	山田洋次	花子	緑魔子	お清	ミヤコ蝶々
撮影	高羽哲夫	不動	犬塚弘	解説役	小沢昭一
照明	戸井田泰国	鉄	芦屋小雁		
録音	小尾幸魚	ガス	佐藤謙次郎		
音楽	山本直純				
美術	重田重盛				

大阪の街を舞台に、極道の幹部に憧れるあらくれ者と九州から出てきた家出娘の恋模様を描いた山田洋次監督の秀作コメディ。最初あらくれ者の三郎は家出娘花子をだまして金を稼ごうとするが、善意のかたまりのような花子の無垢さに打たれ、やがて心のつながりを感じてゆく。当時、若手コメディアン成長株であったなべおさみと、一風変わった存在感を放つ女優緑魔子が不器用な「連帯」で結ばれた二人を好演したほか、ミヤコ蝶々、犬塚弘といった助演組、さらには小沢昭一による活弁調の解説もこの作品に独特の彩りを添えている。山田監督は、この作品に込めたのは「アホなテンピラ」のおかしさであると後に述べたが、その一方でほろ苦い結末の描き方も魅力となっている。脚本はほとんど森崎東が執筆しているが、社会の決まり事から外れた世界で生きる人々への共感、後の「フーテンの寅」像にもつながるだろう。

1963年(昭和38年)
モノクロ/シネマスコープ
1時間50分
制作:東映(東京)

おかしな奴



スタッフ **出演者**

脚本	鈴木尚之	三遊亭歌笑	渥美清	兄弟子しゃもじ	佐藤慶
監督	沢島忠	おひさ	三田佳子	三遊亭金楽師匠	石山健二郎
撮影	藤井静	春藤ふじ子	南田洋子	円八師匠	十朱久雄
照明	原田政重	歌笑の父 高水為吉	加藤嘉	あんま宅悦	渡辺篤
録音	小松忠之	母 やす	清川虹子	とん平	春風亭柳朝
音楽	佐藤勝	藤田三吉	田中邦衛		
美術	北川弘				

自ら「珍顔」を名乗り、戦後の落語界で爆発的な人気を誇った風変わりな落語家、三遊亭歌笑(1917~50)の短い人生を描いた東映作品。歌笑を演じた渥美清にとって、この映画は『拝啓天皇陛下様』(1963、野村芳太郎監督)やアフリカを舞台にした『フナトシの歌』(1965、羽仁進監督)と並んで「寅さん」以前の代表作と言えるだろう。監督の沢島忠は東映の中でも新しい世代に属し、中村錦之助(後に萬屋錦之介)主演の時代劇「一心太助」シリーズ(1958~63)など、フットワークの軽い演出で知られる。実在の歌笑はナンセンスな笑いを得意としたことで知られたが、沢島監督はあえてこの落語家の生涯を、滑稽な笑いばかりでなく、夫婦愛を軸にそこはかない哀しみを込めて描いている。やがて名作『飢餓海峽』(1965、内田吐夢監督)を執筆することになる脚本家鈴木尚之や、数々の黒澤明作品に音楽を提供した作曲家佐藤勝など、スタッフ陣の豪華さでも注目に値するだろう。

【鑑賞チケットについて】

●チケットの払い戻し、交換、再発券はいたしません。●チケットは、1日通して全作品をご覧いただけます。(シネマトーク含む) ●チケットはどちらか1日でご利用ください。(1枚で2日間をまたぎご利用はできません) ●各日通してお一人様ご利用ください。ご入場後、他の方へのチケットの譲渡はご遠慮願います。(当日に限りチケット提示で再入場可) ●定員に達した回は、ご入場をお断りすることがございます。お早目にご入場ください。●4歳から入場できます。チケットはお一人様一枚ご用意ください。(車イス席は同額 1,400 円で各日限定 6 席) ●両日とも軽食販売を行います。客席内での飲食はご遠慮いただきます。館内に食事スペースを準備いたしますので、ご来場当日、会場スタッフまでお問合せください。●客席内での飲食はご遠慮願います。